

勝久 晴夫
知的基盤総合センター・特任助教

【研究】

有斐閣から出版された『商標法第2版』において、第13章「特殊の商標」(289-320頁)を執筆した。研究報告としては、3月29日に開催されたIPrism研究会において、「売買契約によって取得した物が他人の知的財産権を侵害する場合の契約不適合責任」を報告した。

研究活動としては、商事法務知的財産法判例研究会及び同志社大学知的財産法研究会のメンバーとして、毎月の研究報告会に出席し、知的財産法分野の研究者・実務家と意見交換を行っている。

【教育】

産業財産権法展開(総合)、産業財産権法展開(特別)、産業財産権法基盤(集中)、知的財産権関係契約法(特別)の4つの講義を担当した。

各講義においては、従来議論の体系的な解説のほか、最新の判例や法改正動向などにも言及し、新しい法情報の提供も行った。講義内では学生と質疑応答する場面を積極的に作るようにし、知識の定着・理解の深度を確認することを心がけた。

【管理運営】

情報管理委員として情報管理を行うとともに、全学委員会の委員として情報セキュリティ連絡会において、各部局の代表者と意見交換を行った。

IPrismシステム員として、IPrismサーバ管理のための各申請手続、業者との連絡、意見交換などを行った。この他、Iprism内の無線LAN環境でセキュリティ向上を図るとともに、システムの見直しを行い、利用しやすい環境整備を整えた。

平成30年度はIPrismサーバの構築から5年を経たことから、ハードウェアリプレースを実行し、システムの老朽化対策を行った。この作業と同時並行し、これまでのシステム運用で明らかとなった問題点(停電後の不具合、稼働サーバの精査)を改善した。

【社会貢献】

知的財産教育の普及の一環として、関西大学において、「基礎からの情報処理」という理系学生向けの講義の中で、知的財産法の講義を前期後期各2回実施した。